

石川県立図書館報

No.279(平成16年2月)

# いしかわ

編集・発行

石川県立図書館

〒920-0964

金沢市本多町3-2-15

TEL(076)223-9581

FAX(076)222-2531



記念講演「図書館と私」講演中の林望氏

平成十五年度石川県図書館大会を終えて

## 「図書館サービスとバリアフリー」

十一月二十一日に開催された石川県図書館大会では、これからの図書館サービスの重要な課題である「バリアフリー」をテーマに、さまざまな障害を取り除く方策と図書館間の協力について話し合いが行われました。バリアフリーといっても、体の不自由な人だけではなく、外国人の利用が増えていることによる多言語、多文化への対策、図書館から離れた地域に住んでいる人へのサービス等と、課題はさまざまです。公共、大学、学校等の館種をこえた部会の設定、パネルに石川県と友好関係にある中国江蘇省南京図書館の職員を迎えたこと等、今年度は従来より広範な情報提供があり、討議も弾みました。

当日は、「すべての人が利用できる図書館」へ向けた各図書館の取組みの発表と、林望氏による記念講演「図書館と私」のほか、地域の読書活動の推進や図書館活動に功労のあった個人や団体の表彰がかわせて行われ、真柄教育振興財団から「真柄文庫」の目録が、学校や図書館、子ども文庫に贈呈されました。

図書館サービスをより広く、より深く、県内全域での読書活動の展開と振興を考える時、図書館や読書団体の関係者が一同に会するこの大会の意義には大きいものがあります。新しい年を迎え、市町村合併、IT化が進むなど、図書館をとりまく状況が大きく変わる中で、さまざまなバリアを除くことに着手し、図書館サービスを一歩でも前進させたいものです。

## 記念講演「図書館と私」

作家書誌学者 林 望

私の専門は日本書誌学ですが、大学院では江戸時代の小説を専攻し、

『近代艶陰者』と『わらひ草のさうし』を研究しました。『わらひ草のさうし』は、これまで研究した人がほとんどおらず、全く知られていません。それを文献学的に研究することで自分の道が見えてきたのです。

『近代艶陰者』の著者と思われる西鷺軒橋泉は漢詩文の『莊子』と『遊仙窟』に通暁していたと考えられます。『莊子』は、中国古代の老荘思想の根幹テキストで読解は大変困難なものです。張鷟著の『遊仙窟』は、中国の通俗小説で極めて特殊な漢文体で書かれています。

これらを研究する為には、写本刊本を含めた古文獻の勉強が不可欠です。私は「斯道文庫」(慶應義塾大学)の主事をされていた阿部隆一先生に師事しました。先生のお供をして日本各地の図書館等を訪ね、夥しい数の実物を見、図書を扱う基本的な姿勢や、逐一現物で研究をし、調べたことを全て目録に書き現すことを徹底的に仕込まれ、文献学的な研究の方法を学びました。似たような資料がたくさんある中で、それらが原刻本なのか覆刻か模刻か、その資料的

価値を見極めることが重要です。そのために訪書の旅をし、コピーや写真撮って較べ、どんなにありふれた本も比較調査を欠かさないと、書誌学における社会考古学的立場の重要性を会得しました。

その後、私は『岩崎文庫貴重書書誌解題』の編纂を行い、イギリスでは『ロンドン大学東洋アフリカ校所蔵日本古典籍善本解題並に目録』、『ケンブリッジ大学所蔵和漢古書総合目録』の編纂に携わりました。先人の間違いを正し、比較調査を行い、目録の作成に労力を注ぎました。

ケンブリッジ大学所蔵の日本文献目録の編纂は、文献学に関心のあるピーター・コーニツキ君との出会いによって実現したもので、文献調査では、日本各地の図書館司書の方々の協力をいただいて、一万冊を約一年間で調べ終えることができたのです。

書誌学の第一人者である阿部先生の下で、一心に学問修行をした十年間がなければ、ケンブリッジ大学の目録を任されることもなく、イギリスに行くことがなければ、『イギリスはおいしい』も書けなかったわけで、図書館との長いご縁、人間の不思議な縁、運命というものを感ずる次第です。

## 第一部会報告

## 「バリアーをのぞく」

参加者五十二名

はじめに、北陸先端科学技術大学院大学附属図書館の末永和子氏が、「図書館の24時間開館サービスと地域開放」というテーマで、附属図書館におけるサービスについて報告されました。

北陸先端科学技術大学院大学附属図書館は、学内の学生・教職員だけでなく、学外の人たちにも開放された図書館であるとの説明がありました。オープンキャンパスの際には、図書館ツアーも行なっているとのこと、学外の利用者は増加しているということ、大学図書館の地域開放もひとつのバリアフリーではないか、との視点に立ち、図書館運営がなされているとの報告でした。

次に、日本病院患者図書館協会の菊池佑氏から、日本における病院患者図書館の現状について報告がありました。

日本では、平成十四年に、静岡県に、初めて専任司書を配置した病院患者図書館「あすなる図書館」ができた程度で、世界レベルといえる病院患者図書館は、ほとんどないのが現状のようです。ただ、より良い医療のためには、病院患者図書館が必要であると考える病院が増えつつあ

るといふ報告でした。一般の公共図書館のような蔵書を持つとともに、患者向けの医学書・医学雑誌などの医療文献・情報も提供することから、公共図書館と専門図書館との機能を併せ持つものが、病院患者図書館であるとのことでした。

続いて、辰口町立図書館を設計した高長一級建築士事務所の高長美津子氏からの報告がありました。

高長氏は、辰口町立図書館の設計にあたり、職員・利用者、それぞれの立場からの意見や要望を聞くことで、本当に必要なものを作ることができた、というお話でした。できるかぎり、あらゆる箇所でのバリアフリー、誰にでも使いやすく、さりげない形でのバリアフリーを目指したということ。なお、部会参加者から、バリアフリーに配慮した建築の場合とそうでない場合とは、建築費用に差があるかという質問が、高長氏によれば、大きな予算の中では、それほど差はない、ということでした。

最後の質疑応答では、病院患者図書館になじみが薄いこともあってか、病院患者図書館での選書の方法、図書館設備の配置や、あすなる図書館で実際に行われているサービスなどについての質問が出ました。

## 第二部会報告

## 「ネットワーク」

参加者六十八名

図書館と他の図書館、利用者、他の機関などのネットワークの構築と活用について、三人のパネラーの報告や提言を中心に、有意義な質疑応答が行われました。

まず、福井県立図書館司書の島貫俊秀氏より、新館建設を機会としたネットワークづくりやサービスの充実化についての発表がありました。発表では、館内で利用できる情報機器については新館建設に伴ってずいぶん充実したと思われるが、ネットワークの構築については、機械システムの問題よりも、市町村図書館との相互理解と協力関係の構築が一番の課題であると指摘されました。

次に津幡町立図書館の前田幸子館長から、「図書館サービスとバリアフリー」というテーマで発表がありました。津幡町立図書館は貸出冊数八十八万八千八百八十八冊を八年目で達成し、その経験を踏まえて、「小さな図書館でのネットワークづくり」活動について貴重な発表がありました。その中で、「図書館とは本と出会うだけでなく、人と人が出会う場」であるとし、そのためのさまざまな活動が報告されました。そして本を「手渡す」ことによつて、「人とのつながり」を深めていくこと、また単に図書館員だけでなく、利用者である町の人、そしてその人の輪をさらに広げていくことが大切であると指摘されました。また

「ハードをハードに！インターネットをハードのネットに！」という言葉も、機械的になりがちなインターネットネットワークのあり方を考え直す必要性を感じさせられた言葉でした。

松任市立東明小学校司書の野崎美希氏からは、「松任市における図書館ネットワーク」というテーマで、市内の学校図書室への司書配置から始まった一連のネットワーク発展の経緯について報告がありました。学校の図書室に司書が配置されるということが、学校内の授業に役立つだけではなく、他の学校や公共図書館にも協力の輪を広げていけるのだということ、さらに、学校図書室という一人職場でやもすれば孤立する傾向のある学校司書が、さまざまなネットワークを通じて情報を交換し、協力関係を作っていくことの重要性を指摘されました。その後、三氏の発表を踏まえて、参加者から質問が出されました。とくに学校での授業の活用や、近年活字離れが進みつつあるといわれる学生たち、いかに図書館を親しみやすいものにし活用してもらえようにするかという問題について、パネラーの方々から経験を踏まえたアドバイ스가なされました。

最後に、ネットワークが単に機械やシステムの問題だけではなく、人と人とのつながりであるということを確認し閉会しました。

## 第三部会報告

## 「国際交流」

参加者五十一名

まず、中国南京図書館典蔵部主任王霞氏より、南京図書館と石川県立図書館の国際交流について、発表がありました。

一九九五年、谷本知事の南京訪問をきっかけとして、両館の交流がスタートしたこと

その後、両館の交流と協力事業について合意書が結ばれ、友好交流事業が本格的に発足したこと

その合意書に基づき、両館は定期的な相互交流と図書交流を行なっていること

など、これまでの経緯について触れられ、「両館の交流と協力関係の絆を一層強化することは、両館の発展はもとより、公共図書館のサービスの向上や日中両国の友好促進につながる」「図書の交換事業は、利用者から高く評価されており、今後さらに拡大していきたい」と話されました。

次に、ストーリーテラーの松浦和子氏から、アメリカの図書館での昔話実演の報告がありました。

日本の民話・物語詩を日本語で伝え

・無から始まり無へ帰するという、日本の物語独特の世界は、外国人にはわかりにくいのではないかと心配していた、がうまく伝えることができた  
・アメリカ人の反応はとて素早く、日本語のリズムの面白さや擬態語(オノマトペ)をとても喜んでもらえた

以上の体験談やシアトルの施設について紹介された後、現地で好評を博したという絵本「もこもこもこ」(谷川俊太郎・作 元永定正・絵)を実演され、「外国人に日本の物語を、日本語でもっと味わってもらいたい」と語られました。

続いて、北陸大学ライブラリーセンター課長補佐徳野恵子氏より、大学図書館における留学生へのサービスについて発表がありました。

・留学生の人数は二百十八名で、全学生数の八%にのぼる。国別では中国が二百十名、韓国が七名、アメリカが一名である

・留学生へのサービスは、主として「留学生用図書コーナーを設ける」「電子ブックプレイヤーの貸し出しをする」「OPACでのピンイン・ハングル入力をする」「留学生をアルバイトとして採用する」「日本語学習ビデオ・DVDを収集し、貸し出しをする」などである

留学生はライブラリーセンターをよく利用している状況にあるが、課題として、留学生の要望をよく把握することをあげられ、学内の他の留学生サービス部署との連携をとることの大切さを語られました。

最後に、司会の金沢市立泉野図書館主査小林京子氏より、泉野図書館の「ワールド・インフォメーションルーム」の取り組みが紹介され、多文化サービス・外国文化の理解・国際交流の大切さを再確認し、質疑応答の後、閉会しました。

子どもゆめ基金助成活動事業  
石川おはなしキャラバン  
**おはなしキャラバン  
養成講座開催**

平成十五年十月から十一月にかけておはなしキャラバン養成講座を開催しました。

この講座は、読み聞かせやストーリーテリング、ブックトークなど、子ども達に本の楽しさを伝えるために必要な知識や技術を学び、地域での子ども達の読書に関わる活動に繋げていくことを目的として、昨年に引き続き開催したものです。

今年度は、県内の広い地域でより多くの方に受講していただくために、能登会場、加賀会場、金沢会場の三会場で計四回実施しました。

受講者は、能登会場(七尾市立図書館)が二十九名、加賀会場(小松市立図書館)が五十五名、金沢会場(石川県立図書館、石川県立生涯学習センター)十月開始コースが三十五名、十一月開始コースが七十九名に上り、子どもの読書への関心の高さを示しました。各講座のテーマと講師を紹介します。

第一回「子どもたちへ、楽しい読み聞かせを 子ども本の与え方と読み聞かせを学ぶ」



講座の実習中の風景

講師

・東海子どもの本ネットワーク 世話人 近藤 洋子氏  
・昔ばなし大学講師 伊藤 明美氏

第二回「聞く楽しさ、語る楽しさはなしの技術を学ぶ」  
講師

・おはなしの会主宰 神戸 洋子氏  
・元百合女子大学非常勤講師 松本 なお子氏

第三回「本の世界へはいつてみようブックトーク、読書のアニメーションを学ぶ」

講師  
・児童図書館研究会運営委員長 黒沢 克朗氏

受講生は、これから活動をはじめようとする人、活動を始めて一、二年の人、すでに長年活動を続けている人と様々でしたが、実践を重ねてきた講師の方々の講義を熱心に受講し、また、実習にも積極的に参加するなど、それぞれに大きな成果を得ることができたと思います。

修了者には、その成果を活かし、さらに活動を広めるため「おはなしキャラバンツアー」の講師として、県内各地でおはなし会を行っていただく予定です。

おはなしキャラバンツアーを  
お楽しみに!

十一月六日(土)に、講座修了生が、穴水町立図書館において、穴水町のボランティアの方といっしょにおはなし会を行いました。

子ども達は、「きつね」をテーマにした紙芝居や絵本の読み聞かせ、ストーリーテリングなどで、本の世界を楽しみました。

この後も、二月から三月にかけて、七尾市、小松市、内灘町、鶴来町、志雄町、加賀市、押水町、美川町、松任市の各図書館、そして県立図書館で、おはなしキャラバンツアーを予定しています。どうぞ、お楽しみに。

お知らせ  
**中国語図書貸出スタート!**

平成七年より交流している、南京図書館から寄贈された中国語図書約五百冊の受入作業が終わりました。これからは日本語図書と同じように、検索や貸出ができます。

閲覧室に入って右手の「文学」の棚の向かいに、「国際交流図書」というコーナーを設けました。どうぞ手に取ってご覧ください。

『月明文庫目録』について  
石川県図書館協会からのお知らせ

石川県立図書館から刊行された「月明文庫目録」が、平成十五年十一月に金沢で開催された「日本近世文学会」で高い評価を得たほか、一般の俳句愛好者、俳諧研究者から頒布を希望する声が多くありました。

そこで、石川県図書館協会が一般頒布用に印刷し、一冊三千円で販売しています。

〈問合せ先〉

石川県図書館協会(石川県立図書館調査相談課内)

電話〇七六 一一三三 九五七八  
FAX〇七六 二二二二 二五三二  
までお問い合わせください。